

## シリーズ

### 近刊本紹介

樹木医 富塚武邦

#### 1. 「花の色図鑑」2007年

福田邦夫 (株)講談社 1600円

和洋中の植物文化を表す伝統色名を紹介し、色に与えられた間接的な名称はそのような色の表現を必要とする社会でしか生まれなかったことを語り、それぞれの文化や歴史で育まれた色彩の表現が美しい。日本語色名は季節の草花からとられた情緒豊かな文学的色名が多く、その殆どが平安時代の貴族文化の産物とされ、私たちにとって最上の文化財となっている。英語の紫や黄色を表す色名の多くは、合成染料発見後の流行色の色名と言われている。中国色名は4000年もの歴史を有し、日本の植物染料の起源にも関与するが、現在そのほとんどは日本になじみがない。印刷が美しく、各色について基本色の構成が明示されているが、感覚とのギャップに驚く。色見本や色の基礎知識についても言及している。

#### 2. 「君津の自然」2008年

鈴木欣也 藤平量郎 吉原 洋

うらべ書房 1500円

現職を退かれた3人の方々の執筆によるもので、内容は専門的にもかかわらず読みやすく、生きとし生きるもの全てへの愛情や、文化、伝統への真摯な思いが率直に伝わってくる。先人の知恵の結晶である川廻しも写真や地図で示され興味深い。氷期遺存種と暖地の植物では特徴ある植物群落の消長が、絶え間のない気候変動と地形変動の中で、ロマンを秘めてまたパズルのように見えてくる。潔く他の植物に生育場所を譲るスプリングフェメルの植物たちも愛お

しい。そしてヒメコマツ復活等の実践活動を通しての問題点の指摘や提言は、これからの環境保全、さらには植物や生物再生復活への大きな力になると信ずる。

#### 3. 「植物で未来をつくる」2008年

松永和紀 (株)化学同人 1260円

植物の研究がどんなに夢に満ちて面白く、また社会への貢献がいかに期待されているかを語り、植物のゲノム研究から生命現象の謎を探求していく科学者の姿とその成果を浮き彫りにしている。そして化石エネルギーのオイルリファイナリーから植物バイオマスリファイナリーへと主張は、植物が潜在的に持っている力を見出し、さまざまな化学製品をつくるシステムを検討するもので共感を呼ぶ。また米を食べることで花粉症を改善する研究等、面白い事例が盛り込まれ、先端技術の研究状況が見えてくる。しかし現代の植物科学の進展の上で、遺伝子組み換えは避けて通れない問題であり、食品や肥料、生態系や環境への安全性のための法律やガイドラインを遵守することはもちろんのこと、それらに書かれている以上に細心の注意を払うとともに、多くの人に遺伝子組み換えの長所や短所を知ってもらい、理解を得ることの必要性を感じる。

#### 4. 「樹皮ハンドブック」2006年

林 将之 (株)文一総合出版 1260円

樹木の花や葉、果実、性状等を記述した本は多いが、樹皮まで詳しく言及していない。本書は樹皮を主体に紹介したもので158種類の樹木を横・筋、縦・筋、平滑、縦・<sup>たて</sup>裂、斑・剥、網・裂、の6種類のタイプに区分し、樹種ごとに若木、成木、老木の樹皮写真で説明している。アキニレ、ヤマ

グワ、ソメイヨシノ等の変化は劇的であるが、変化の少ない樹種もあり、また樹種間で非常に似通っているものもある。樹皮は葉や花と比べると特徴がつかみにくい上に多様な変異が見られるため、現在樹皮による同定方法は確立されていないが、本書を活用しながら独自の見分け方を探求することも楽しいと思う。

## シリーズ

### 千葉県の巨樹・古木（県南地区）

樹木医 小池英憲

千葉県内には多くの巨樹古木がありますが、今回県内地区でも代表的な巨樹を2本紹介いたします。

#### 1. 賀恵淵のシイ

##### 1) 樹木名

和名 スダジイ 科名 ブナ科

学名 *Castanopsis cuspidate*

##### 2) 大きさ 樹齢

樹高 21m 幹周 8.5m 樹齢 600年

全国的に見て千葉県はシイの巨木数が多く、本樹は名木100選に選ばれている樹木である。

一本の木で森を思わせるような樹形は、相当以前に主幹が折れて横枝が伸びた事と、川からの風が強いために現在の樹形になったものと思われる。

##### 3) 生育場所（君津市賀恵淵）

小櫃川の沖積低地に位置する。1万年前から河川的作用で運ばれた砂や、泥等が堆積して作られた。

##### 4) 地域との関係（地名の由来）

シイの生育場所に、浅間神社と八坂神社があり地域の方は天皇様と呼んでいた。（天皇様 八坂神社の守り神 牛頭天皇から来

ている。）

浅間神社祭り - 8月の初めシイノキの回りを掃除してお茶、お酒等を飲む。

・小櫃川の由来として2説がある

(1) 大友皇子の遺骨を納めた御柩（御ひつ）が小櫃川沿いにある事から現在の名前がつけられた。尚、鎌足や馬来田等の飛鳥時代の主要人物を思わせる地名が近くに残っている事もこの説を裏付ける資料である。

(2) 上流に里見の居城久留里城がある。小田原北条氏と里見氏の激戦の場所であり小櫃を背負った武士が川を上り下りした事からこの地名がある。

・賀恵淵の由来

賀恵淵は欠水村、貝淵村(明治8年11月)が変わって現在の名前になったと言われている。又、淵は川の側で流れに段差があるところを言っている。



(神秘的な樹形が巨木の風格を作る)

##### 5) 樹木医とのかかわり

「NPO 法人 樹の生命を守る会」が巨樹・古木調査で県から受託して、樹勢診断を行った。

その結果、多くの開口空洞と腐朽箇所が多く見られたが、それを充填等の処置で埋

めるのが良いか、そのままが良いか意見が分かれるところである。

その結果、外科的な処置は行わず、根元回りに落葉が溜まるような処置と、孟宗竹を使ったエアレーションを地元の方の協力で行った。

#### 6) その他

シイ

農耕以前はシイの実が灰汁がなくクリ、クルミに次いで重要な食料資源であった。又、これまでの住宅の庭園には必ず植えられるほど他の樹木との馴染みが良く目隠し、防火樹、高生垣等に利用された。生活の中では薪炭材、椎茸の原木等に利用され、子供たちにクワガタが棲み付く事で人気がある。照葉樹林の代表樹として極相林を構成する。

葉が平面的で密生しているので、枝葉を何枚も重ねて川や沼でエビや雑魚とりに利用した。

## 2. 館山市天然記念物 沼のビャクシン

### 1) 樹木名

和名 イブキ 科名 ヒノキ科

学名 *Juniperus cineensis*

### 2) 大きさ

樹高 17m 幹周 8m 樹齢 800年

### 3) 生育場所

(館山市沼 443)

谷津入口の一段高い位置で成育する本樹は、幹が太く枝張りが四方に伸び、一部樹皮が剥皮し木化して固まっている姿は数百年の歴史を刻み荘厳さを感じる。

県内はもちろん全国的に見ても巨木の風格を漂わせている。

### 4) 地域との関係

館山城を見上げる谷津の入口、12天社の境内に成育する。近くに県指定天然記念物「沼サンゴ層」があり12天神社は航海安全、豊漁の神などの漁業神であることから近くまで海が来ていた事が分る。

同じ館山には樹形は小さいが樹齢800年(市指定)の滝川ビャクシンと、近くの鋸南町天寧寺に樹齢600年の県指定のビャクシンがある。

### 5) 樹木医とのかかわり

「NPO 法人 樹の生命を守る会」で県から受託して、巨樹・古木調査で樹勢診断を行った。古木になるとどのように対応した方が良いか判断に迷うが、とりあえず回りの被圧樹の剪定と支柱の取替えを行うように判断した。根元回りについては現在のところ見学者が少ないのでそのままにして、枯れ枝の剪定と着生樹については大きくなるものに関して切除した方が良いと判断した。



(写真 樹木医 小池英恵)